

平成29年8月30日（水）

第8回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成29年8月30日(水)午後2時00分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委員 豊島 秀範
委員 長谷川浩子 委員 足立 俊弘
委員 蒲田 知子
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員
教育総務部長 小島茂明 生涯学習部長 小林信治
生涯学習部次長兼生涯学習課長兼生涯学習センター長 木下登志子
総務課長 山田和夫 学校教育課長 大島慎一
指導課長兼小中一貫教育推進室長 羽場秀樹
教育研究所長 土山勇人 少年センター長 横山悦子
文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 鈴木 肇
鳥の博物館長 鈴木順一 図書館長 櫻井 實
生涯学習課主幹兼公民館長 丸山正晃
文化・スポーツ課主幹 小林由紀夫 総務課長主幹 森田康宏
6. 欠席事務局職員 文化・スポーツ課主幹 辻 史郎

午後 2 時 0 0 分開会

○倉部教育長 ただいまから平成 2 9 年第 8 回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第 1 8 条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答をお願いします。

会議録署名委員指名

○倉部教育長 日程第 1、我孫子市教育委員会会議規則第 3 1 条の規定により、会議録署名委員を指名します。豊島委員をお願いします。

議案第 1 号

○倉部教育長 日程第 2、議案の審査を行います。

議案第 1 号、我孫子市通学区域審議会委員の委嘱について、事務局から説明をお願いします。

○大島学校教育課長 それでは議案第 1 号、我孫子市通学区域審議会委員の委嘱について、提案をさせていただきます。

提案理由は、平成 3 1 年度からの通学区域に関する事項を審議会に諮問するにあたり、我孫子市通学区域審議会条例第 2 条に基づき、新たに委員を委嘱するため、提案するものになります。

次の 2 ページ、3 ページをごらんください。まず委員ですが、3 ページの審議会条例の第 2 条に委員の規定がございます。(1) ～ (3) まで計 1 5 名以内ということで、2 ページのほうに戻りますが、今回 1 3 名の方を委員としてお願いする予定です。委嘱期間としては、9 月 1 4 日が第 1 回目の審議会とな

りますので、この日より12月まで、予定として2回もしくは3回の審議会を予定しております。関係の各学校長、また各学校のPTA役員、そして副市長、市民生活部長、湖北地区公民館長というようなメンバーになっております。

それでは審議のほうをよろしく願いいたします。以上です。

○倉部教育長 以上で説明が終わりました。ただいまの説明について質疑があればこれを許します。

○長谷川委員 たしかこの審議会は、我孫子市を2つのブロックに分けて、隔年で審議をすると書いてあると思うのですがけれども、今回このメンバーは西側の審議になると考えてよろしいのでしょうか。

○大島学校教育課長 今回のメンバーですが、この審議会の審議内容が、根戸小学校、久寺家中学校の学校選択制度が平成30年度をもって廃止となります。それ以降のことについて、また白山中学区、第四小学校学区の台田の住宅開発行為に伴いまして、第四小学校、白山中学校の児童生徒数が増加をすることと並木小学校の複数校進学の解消ということで、西側中心の審議内容になっているため、関係の学校もそのような形で選ばせていただきました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 質疑がないものと認めます。質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 これより採決いたします。

議案第1号、我孫子市通学区域審議会委員の委嘱について、原案に賛成の委員は挙手を願います。

(賛成者挙手)

○倉部教育長 挙手全員と認めます。よって議案第1号は可決されました。

諸 報 告

○倉部教育長 日程第3、諸報告を議題とします。

事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないようですので、これより事務報告に対する質疑の時間とします。質問があればこれを許します。

○豊島委員 6ページ、指導課の4番目の7月26日に行われた「幼保小連携研修会」のところですか。人数も多く充実した会になったと思います。講師の方にもいろいろお話しいただいたりしているのですが、これはうちのほうではないと思いますけれども、「幼保小連携先進市の取組～その成果と課題」と題名としてあります。我々もこれをやっているのですが、その中で考えおかなければいけない課題のようなものが提示されたり報告されたりしたとしたら、例えばどんなようなものだったのかなとちょっと気になっていました。若干でもいからお教えいただければと思います。

○羽場指導課長 今の件ですけれども、前回もお話ししたのですが、御存じのように今年度、各幼稚園の地区に分かれて情報交換をするということがありまして、大きな問題点としては小学校等とかの負担感であるとか、結局いろいろなところに行かないといけないところがありましたので、そこが今年度解消できそうな予定ですので、その部分に関しては情報交換等もやりやすくなって、より効果的な引き継ぎができるのではないかと。やはり引き継ぎという部分が非常に大きな面を要しますので、そこの部分についての課題については今年度の形で解決できるかなと考えております。あとは御存じのようにカリキュラムができましたので、カリキュラムをやった中でまた出てくると思いますので、その課題が出てきた場合は変更していきたいと考えております。

○豊島委員 ありがとうございます。いいことなので、それはやっていきたいと思えます。今までにないことをやるわけですので、それは絶対負担感がふえるわけで、そこをどうクリアしていくかということが問題になるので、どうしたって作業はふえると思えます。小学校に行ったりしなければいけないし、逆もあるでしょうから。小中もそうですけれどもね。そのところを何とか全員がうまく考えられるような、そしてそれを解決していけるような、大変でしょうけれども、そういうふうな下地をつくっていく必要があると思えますので、よろしくをお願いします。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですか。今の御意見を踏まえて、ぜひ実行してください。よろしくをお願いします。

○羽場指導課長 わかりました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 続けて済みません。7ページの指導課の9番目、「中学生と教育委員との懇談会」が8月3日にありました。私も参加しました。すごく実りある会でした。中学生たちの気持ちを知ることができました。ここにもあるのですけれども、いじめなんかもここで議題になったのですが、「いじめアンケートについて」というところで、アンケートのとり方について何人かの中学生が言っていたことがありました。例えば教室の中でアンケートを書くという場合に、普通であればさっさっさっさと書いて終わってしまう。けども、いじめにかかわっていたり、いじめの内容について書こうとすると、どうしても時間がかかる。だからそういうことを書いているなということがわかってしまう。アンケートにいろいろ書いているな、時間かかっているな、いじめのことについて書いているのだなということがわかってしまうようなアンケートのとり方というのは、いかがなものかなということがあったのだと思います。何人かから出ていました。つらいものがありますので、いじめがゼロにできればいいので

すけれども、実態がわかってくるためには、そののところが何か工夫する必要があるのではないのかなというふうに思います。自宅で書いて出すとか、あるいは別な時間を使うとか、教育長さん以下、担当の方も出ていらっしやったわけで、それについて何か感想なり、対応なりということがありましたら、お話しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○横山少年センター長 私のほうで担当させていただいておりますので、お答えしたいと思います。まず、その行事ができたということに本当に感謝いたします。来ていただきましてありがとうございます。何気ないところで、本当に子供たちの本音を聞き出すことができ、充実した会になったかなと思っています。

その中で、今、豊島委員さんからあったように、アンケートのとり方について、もう少し考えていかなければいけないなということを深く考えたところです。今ありましたように、家で書く、あるいはほかの教科の中でいじめのアンケートを配付することで、どのくらいその子が時間がかかったかわからないような調整をする。小学校、中学校の発達段階、あるいは地区により、一旦返したものがなかなか持ってこられないという実態の差もありますので、11月のアンケートの時点ではこのことを考慮しながら、学校で判断して、方法をとってもらおうかということは今課内で話し合っているところです。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。家庭によってはなかなか出さないということもあるでしょう、それはよくわかります。いろいろ考えた中で、どうすれば実態がこちら側に伝わるか、そのことを最優先に考えていかなければいけないと思うので、それをどうしたらいいんだと。家で書かせてくるのが一番いいのかどうかも私も迷いますけれども、今の状況ではちょっと問題があるのかなという気はしていましたので、まだほかに御意見等、あるいは方法等ありましたら教えていただきたい。

○倉部教育長 私の感想としては、本当に率直に生徒のほうが見聞を交換してくれたという、とても充実した会だったと思いますし、皆さんも多分同じように感じていただけたと思います。教育委員さん自身もみずからの思いとか、熱い思いを子供たちに投げかけたからこそ、ああいう会にできたのかなというふうにとてもうれしく思っています。子供たちとの話の中で、子供たちもみずから、こういうふうにしたほうがいいのではないかと提案したりとか、生徒会としてどういうふうこれからやっていこうかというような、いろいろ自分たちとしても考えていこうという姿勢が見えましたので、それについては教育委員会、学校だけが頑張るのではなくて、子供たちを巻き込んで一緒になってやろうという雰囲気づくりもできたのかなというふうに、これからのあり方というものに期待できる、つながる会だったかなと思っています。あとはそれぞれの工夫の中で、一様でできるわけでもないと思いますので、それぞれ学校によってやり方も違っていいというような雰囲気が感じられましたので、それぞれに合ったものを子供たちと一緒に考えていながら、より有効なアンケートにしていきたいなという思いを強めました。よろしいでしょうか。

お一人ずつ聞くというよりも、皆さん同じような思いだったかと思っていますので、ぜひとも一緒になって、緩い形でいじめに対策ができればいいかなと思っていますので、よろしくお願いします。よろしいでしょうか。

○豊島委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 それでは、ほかに御質問があれば。

○蒲田委員 同じページの6番です。「学校図書館・市民図書館連絡会議」のことでお尋ねしたいと思います。講義の中で「土小学校における読書指導」というものがあつたと書いてあるのですが、簡単にこの内容を教えていただきたいと思っています。

また、これと我孫子との違いといいますか、もし違いがあつて、我孫子がこ

ういったことを取り入れたほうがいいのか、そのような御意見が出ていたということがありましたら教えていただきたいと思います。

○羽場指導課長 まず土小学校なのですけれども、以前もお話ししたように、ビブリオバトルを全学年でやっていることもありまして、非常に興味を持って行かせていただいたのですけれども、まず驚いたことは図書室の整備が行き届いている。講義の内容にも出ていたのですけれども、子供たちが授業の中で必要だと思われる課題とか、また解決するために必要なものがあると思うのですが、それを調べるためには、多分今我孫子でやった場合には、恐らく行ってどうしようかなと。または事前に教諭が選んでおけば何とかなるのですが、なかなかその余裕がないので、あの学校の場合は、こういう形で教育課程がなっていて指導をやっていくということを担当の方は準備して待っていてくれる。または子供たちが行ったときに、アクセスすれば何番に入ってくるというものが出てきますので、そこで資料が探せる。それによって子供たちは、普通であれば行って探すまでに時間がかかってしまって、1単位時間では、チャイムが鳴ってしまう状況なのですが、行った段階ですぐに見て、調べてまとめることができるということで、予想はしていたことなのですけれども、それが大きな違いですばらしいなということ。そのためには、そこに指導していただける司書の方が学校に配置されていることが必要なのかなということがあります。

我孫子市に関してもコンピューターの導入であるとか、そういう形によってやっていくことも必要だと思うのですが、それをやる前に、そういう方たちを各学校に1人配置して、これもお話ししたのですが、そういう方たちがまず動く中で、こういうコンピューターを使っていくという流れでやっていくことが必要かなということは、その講義を聞きながら思ったことです。以上です。

○蒲田委員 ありがとうございます。子供たちを見ていて思うのですけれども、本を手にとるのが面倒で、簡単なことは調べてしまえばいい。それは大人も見

せてしまっているのです、言葉で言えば出てくるしみたいな感じになっているのですけれども、自分の手を使って、体を使うまではいかないでしょうけれども、調べ上げるという経験は、この先大人になったときにとても役立つことになると思いますので、そのために頑張ってくださいたいと思います。ありがとうございました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○長谷川委員 今回の図書館の件で、少しずれてしまうのですけれども、私の考えで、学校の図書室というのは、本を読む場所であると思うのですけれども、それ以外にも学校の保健室と同じように、ちょっと疲れてしまった子供ですとか、教室でお友達といることがちょっとつらいという子が逃げ込む場所でもあると思うので、そういう子たちが安心していられるような図書室というのを考えて、これからつくっていただければなと思います。

○倉部教育長 それについてお答えはありますか。

○羽場指導課長 貴重な御意見をありがとうございます。今そういう子たちの居場所というのは保健室、または相談室とか、そういう形が主だと思うのですけれども、図書室に行くといろいろな勉強もできますので、そのことを含めて対応できるように、または少しでも子供たちに貢献できるような形で、これからも考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○倉部教育長 それに関連してなのですけれども、そういう逃げ場としての図書室というものを考えたときに、やはり常駐する誰かは必要ですよね。ということで、やはり考えるべきだと思いますが。

○羽場指導課長 その子の担任であるとか、または相談の関係の方とかがずっとつきっきりというわけにはいかないのです、そこで安心してというわけではないのですけれども、そこで人が見ていただいて本を読んでいるのか、または「行っておいで」と言って、行っても誰もいなくてというところでは全然違う

と思います。その子たちも、大人が1人いるというだけでも全然違うと思うので、そういう配置ができれば、100%ではないにしても、何割かはその方たちにも担当していただけたらと思うので、そういう方たちがいろいろなことなかかわって、不登校とかそういう子たちに対応している方法としては、とてもいい方法ではないかなと思っていますので、それについても今教育長からありましたけれども、人員の配置をきちんとやっていくことが必要かなと考えております。

○倉部教育長 ありがとうございます。

○豊島委員 今のこととの関係で、ちょっとずれるのですけれども、司書教諭という資格があつて、先生であり司書なのですけれども、当分の間は置かなくてもいいというようなことがずっとあつてということがあつたのですけれども、今その教員であり図書のことをやっている司書教諭のような先生というのは、どのぐらい我孫子市では配置されているのですか。

○羽場指導課長 お答えします。各学校に必ず1人は配置されていますので、その方が担当になつてという形になりますが、実際問題として教科担任になるとか、担任にもなるとお思いますので、先ほど言ったように常駐することは不可能ですし、授業の準備のためにこうやってやるとか、そこまではなかなか……。実はうちの妻も司書教諭をやっているのですが、いつもどうにかしてと私に言われているのですが、司書としてはかなり大変だという話は聞いています。

○豊島委員 私の妻も中学校でそうでした。私も司書教諭を持っていますけれども、先ほど図書館に行つてもいないとか、でも司書教諭が中心になつてそれぞれの配置とか考えるわけで、司書教諭の先生が司書の仕事をしていればいいというものでもないことはよくわかります。そのところは大変なこともわかります。でもやはり司書教諭の先生が各校にいるのであれば、その先生が中心になつてプログラムを組んでやっていくしかないわけです。司書教諭の先生が

いるのだということが今わかりましたので、そのところは何とかなるなというふうに思っています。それはお互いにローテーションを組むしかないというふうに思いますので、大変なことはわかりますけれども、何とかお願いしたいと思います。

○羽場指導課長 そのとおりだと思います。司書教諭の空き時間とかも含めて、立ち位置というか、コマ割りであるとか、そういうことも考えながらやっていかないことには難しいと思います。そこについても学校としても考えていくためのアドバイスというか、そのための提案というのをしていきたいと思います。

○倉部教育長 今の話題の中でもう一度確認したいのですが、司書教諭は、それぞれの学校に当然配置されていると思うのですね。それについて、それぞれの学校の中での立ち位置というか、司書教諭としてのあり方、学校図書の使い方というものもあって当然だと思うのですが、ただお話の中にもあったように、専任にはなり切れないということですね。そういう前提があるために、十分に今の学校図書室を使い切れていない状況が長く多分我孫子の中で続いていると感じます。それを打開するためにどういうふうにしたらいいかということを考える中心の先生が司書教諭だろうと思いますので、その辺それぞれの学校の中で、司書教諭の先生が中心となって、どうあるべきかという検討をぜひ進めてほしいなと思いますし、その集約が今後我孫子市がどういうふうに学校図書室を使いながら、なおかつ今回この視察の中には、市民図書館の職員が一緒になって検討していくという方向性が、幸いなことに我孫子ではできている。ですからそのアドバイスも聞きながら、いきなり他市のようにはいかないかもしれないですが、おこなっている我孫子であっても、今スタートできるようなそういう方策を十分に考えていただきたいというのが思いですので、ぜひ検討をお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 10ページの少年センターのところですが、先ほどは11ページの不審者の行動等を伺いました。10ページの1番に幾つかあるのですが、上から3つ目のところに「パトロール及び声かけ」ということで、7月20日、それから7月29日、街頭指導を本当にありがとうございます。これは時間も人数も大変なのですから、これだけの子供たちに声をかけてくださっている。一斉防犯パトロールのところもそうですけれども、3番目の帰宅指導、中学生16人、5番目のところの帰宅指導、中学生25人、高校生5人、これはつくし野祭とかお祭りがあつたりしたこともあるのですけれども、また地区によってもいろいろですが、これは帰宅指導ですから悪いことをやっているわけでは必ずしもないのですが、ちょっと人数が多いかなというふうに思っているのですけれども、この街頭指導等について、そういう報告みたいなものは受けていますか。

○倉部教育長 少年センター長、具体的にどのような指導だったかも含めて報告をお願いします。

○横山少年センター長 7月20日の布佐中区では終業式の日だったのですけれども、6時から街頭指導を行っておりました。なかなか家に帰らず外を歩いていたということで早く帰るように声かけをしたという、ぞろぞろと歩いていたということでした。気をつけて帰りましょうということで、危険なことをしていたということではなく、暗くなってきているので気をつけて帰りましょうと。下校が遅くなったのでしょうか、その集団に対する指導だということ聞いております。

7月29日と30日ですが、これはつくし野祭りということで、ほかの指導員さんたちは、お祭りのときは大体7時ぐらいからパトロールを始めるのですけれども、この久寺家中区は特別で、終わる段階の9時ぐらいからパトロールを始めるということで、終わった後も何となく暗がりの中に子供たちがいたと

ということで、気をつけて帰りましょうということで声かけをしたと聞いております。

この人数につきましては、今、多いというお声も上がったのですが、昨年度も30人ぐらいに声かけをしたというふうに報告を受けておりますので、例年どおりなのかなというふうに担当としては考えております。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。昨年度よりは減っているのですね。

○横山少年センター長 はい。

○豊島委員 それはいいことかと思えますけれども、ただ人数が25人、30人と、中学生ですから、お祭りですからやむを得ないというところはあるのだけれども、こういうところで緩んでしまうので、こうやってお声がけいただくというのはありがたいと思えますので、ぜひ続けていって、時間を余り遅く過ぎすことのないようにしていくのが必要だなと思っています。ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○蒲田委員 9ページに戻って申しわけないのですが、「要請訪問」のことでお尋ねしたいと思います。4番目、7月31日（月曜日）に、内容としては「1年生授業参観及び研究協議」となっていました。この日に授業があったのかどうかというか、ほかは指導案検討だったり、そんなことになっていたので、ここの根戸小学校について特に教えていただきたいと思えます。

○羽場指導課長 これは夏休みですので、1年生の授業をやったものをビデオを見て「参観」としてあります。実は根戸小学校が11月2日に体育に関する公開研究会を開くのですね。それに向けて、山田がずっとついてやっているのですが、そういう形の指導の検討も含めて研究協議という形でやっています。

○蒲田委員 ありがとうございます。そのほかの第一小学校ですとか、我孫子中学校も公開授業研究会に向けての指導案検討というようなことでよろしいの

でしょうか。

○羽場指導課長 御存じのように第一小学校、我孫子中学校はアクティブラーニングの発表ということで、我孫子中学校は10月6日、我孫子第一小学校が11月22日に全国に向けて公開するのですが、それに向けて研究紀要を出さなければいけませんので、そのための指導案の検討が主な形になっております。

○蒲田委員 ありがとうございます

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 14ページ、教育研究所のところでお願いします。毎回細かなデータを出していただいてありがとうございます。本当にこれだけの方々が研究所にいろいろな形で連絡をとって、その指導を仰いでいるということは、ある意味では本当に素晴らしいことだと思います。毎回お話を伺っているのですけれども、例えば1番の③、④、特に③は毎回多いわけですが、「子どもの性格や行動に関すること」ということです。これは主訴ですから性格や行動ということを第一に取り上げた項目なのですからけれども、その下の学習の遅れに関することの22件も多いほうですけれども、③の性格や行動に関することでここに御相談に来る、あるいは電話やいろいろな形で相談している。毎回聞いているので大体わかりますけれども、もうちょっと細かく言っていると、どういうふうなことなのでしょうか。

○土山教育研究所長 やはり性格や行動に関することが非常に多くなっているのですが、保護者のほうから直接研究所に来るケースに関しては、自分のお子さんが親に対して反抗的な行動をとる。学校ではおとなしいのだけれども、家では暴れて手がつけられないことがあると。そういうようなケースが特に目立っております。それから学校を通してくる場合もございます。それは個人面談や学校の面談を通して、例えばすぐ怒ってしまったりとか、そういうような行動が見られるのでということで相談に来られるケースが多いです。

○豊島委員 ありがとうございます。御父兄にとっては大変なことで、どうしていいかわからないということがあると思うのです。この性格や、それに伴う行動というのは、何か突発的にぐあいの悪いことがあって、不愉快なこととかあって怒り出すとか、けんかをするそういうことではなくて、やや病的な、そういうふうな状況の中での性格の問題や行動というふうに考えてよろしいのですか。

○土山教育研究所長 すぐ怒り出すというのも病的に入ると思いますので、親御さんとしては、ほかのお子さんとどうしても比べてしまうところがありまして、どうもうちの子はすぐに怒り出すと。それが病的なことなのか、それとも理由があるのかというのが親御さんにはわからないのです。そのことについて御相談に来るというケースが多いです。

○豊島委員 ありがとうございます。もう1回だけ、しつこくなってしまうのですけれども。性格や行動に関することがこれだけの数があって、そしてその場合に、教育研究所としてはどういうふうな対応をすればいいのでしょうか。

○土山教育研究所長 今現在とっていることですが、まず親御さんとの面談とお子さんとの面談を並行してやっております。お子さんの場合は面談というだけではなく、例えば一緒にゲームをしたり、遊んだりしながら、この子がどのようなバックグラウンドを抱えているかということを探り出して、それで解決に結びつけようということをしております。

○豊島委員 私は医者ではないので、これ以上はわからないのですけれども、お話を伺っている私の背景には、幼保小もやる、小中一貫もやる。そういった中で、なるべく子供がつまづくことのないような状況をつくりたい、勉学の上でもですよ。そういうことを我々はやっているつもりなのですよね。それだけれども、性格や行動というのがある。それは仕方がないことだけれども、それをどうしたらいいんだろうなというふうに今考えて、それだけ研究所のなさ

っていることは大変だなということは実感しながら、それでは解決できない問題がどうしてもあるのだなということで、病院に行けばいいのでしょうかけれども、そうでもないのでしょうか。

○土山教育研究所長 もちろん病院につなげたりとか、子ども相談課につながりとか、いろいろな外部機関とのつながりを持ってやっておりますが、小学生や中学生もそうなのですけれども、学齢期のお子さんのそういう心の診断をしていただける病院は非常に少ないです。今のところかなり入所待ちと申しますか、そういうのもありまして、かなり厳しい状況でございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。事務報告について。

○蒲田委員 23ページです。鳥博の「あびこ自然観察隊」ですが、②、③が「手賀沼のプランクトンと水鳥観察」ということで、今まででしたら7月の終わりに1回だったものが、今回は2回になっています。何か理由がありますでしょうか。

○鈴木鳥の博物館長 お答えいたします。「てがたん」もそうなのですが、自然観察隊についても参加なさる方が非常に多くなっていますことと、あとは月に1回とか回数が少ない場合、当日の天候によって中止になってしまう場合もございますので、回数についてもなるべく多く開催したいというふうに考えております。以上です。

○蒲田委員 ありがとうございます。

○豊島委員 20ページの文化・スポーツ課のところです。文化振興担当の(2)の特別展の「葛飾北斎とその時代」という催し物です。大成功だったと思います。たくさんの人からいろいろな感想を得ておりますが、「無料であんなにすばらしいものを我孫子で見せていただいて感動しています」という意見が幾らもあるのですけれども、本当によかったです。その上でですけれども、15日から31日までという長丁場なのですけれども、今回やってみてよかつ

た点、あるいは、こうしたほうがよかったなとかいろいろあろうと思うのですが、今抱いている感想なり何かありましたらお願いしたいと思います。

○鈴木文化・スポーツ課長 御来場ありがとうございました。今回の展示会は我孫子市文化祭60回を記念して開催したもので、北斎を中心にして浮世絵の肉筆画、木版画の48点を展示しました。本物の作品を多くの市民の方々に身近に見ていただいたということで大変よい企画展だと思っています。また開催に当たりましては、多くの方々の御協力を得て開催しております。大変感謝をしているところです。

アンケートをとったのですが、全体で1,576人の方からアンケートをいただきました。ざっと意見、感想を整理したのですが、感謝をしていただいているコメントが多くございました。ちょっと悪いというのは、作品のほうの関係で会場を暗くしていたのですが、会場が暗かったとか解説がちょっと読みづらかったとか、全般的には皆さんに喜んでいただいていたお言葉が多かったです。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。8,800人、約9,000人ぐらいですよね。すごい人数が来ていただきました。暗いのは仕方がない。ちょっと解説が読みにくかったのは、その後対応していただいたし、よかったと思います。60周年の記念ということでよかったと思いますので、またぜひ70周年記念を何か考えてやっていただきたい。本当にすばらしかったです。大変だっただと思います。ありがとうございます。

○倉部教育長 今の件については本当にいろいろな市民の方々の絶賛の声を多く聞いてとてもうれしかったなと思いますし、文化連盟に所属されている豊島委員も、会場のほうで加わっていただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

これについては5周年ごとのいろいろな企画ということで、これからも検討

されると思いますので、10周年ごとのほうが大きくなると思いますけれども、今後のまた励みになるかなと思っていますので、ぜひいろいろな企画を担当のほうで考えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

ほかに事務報告についていかがでしょうか。

○豊島委員 もう1つだけいいですか。21ページ、同じく文化・スポーツ課のところですか。歴史文化財担当の主催事業の白樺のほうなのですけれども、そこにありますように(1)～(4)まで、参加者はそれほど多くはないのですけれども、着実に地道にこういう計画を立てて実行していただいているというのがいいなと思います。これも大変なのですけれども、ありがたいと思うのと、それからもう1つだけ、またがってしまうのですけれども、次の22ページの鳥の博物館のところも、夏休みということもあって、これだけのテーマを掲げて、人数に来てもらって、こういうことができている。違うところでまたがってしまって申しわけないのですけれども、こうやって見ていけばこれだけのことですけれども、これをやっていただいたことに対して本当にありがたいと思っています。11月に我々のほうも二十何名が3館共通券を買ってありますので、そのときにまたよろしくお願ひしたいと思っています。文化担当と鳥の博物館に感謝したいと思っております。ありがとうございます。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですか。部長、まとめて意気込みでも。

○小林生涯学習部長 白樺文学館は小さい文学館なのですけれども、市が設計してつくったものではなく民間から寄附を受けたものでありまして、所蔵品もまだ整理ができていないところや偏りがあったりするのですけれども、学芸員が独自性を出して展示をカバーしているというようなことがありますので、今それについてお褒めの言葉をいただいたので、これからも我孫子の特色をもっともって出していく文学館にしていきたいなというふうに思っております。

それから鳥の博物館については、公立の博物館というところで、市民にとって、おもしろく、なおかつ役に立つ事業を行っていきたいと考えており、夏休みには子供たちの応援をできるようなプログラムを組みたいなということで、今回はこういうことを入れています。今後も、その都度の状況に合わせて工夫をしながら、さまざまな事業を行っていきたいと思いますので、これからも応援のほうをよろしくお願いいたします

○倉部教育長 ほかに事務報告はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に事務進行予定について質疑があれば、これを許します。

○豊島委員 3ページ、指導課の2番目の9月12日に行われる「中学校初任者研修「授業力アップ研修」」です。第四小学校で算数授業参観と協議会、全体会とあるのですけれども、中学校の初任者研修というのは教科ごとに行うということではなかったのでしょうか。ここは数学なのですからけれども、学科ごとではなくて、初任者研修というのは、こういう限られた回数でということでしたか。私はうろ覚えになっていて、その辺を教えていただければと思います。

○羽場指導課長 年間で何回か組まれております。6人いる初任者は全部数学科ではありませんので、今おっしゃることはそのとおりなのですけれども、授業の見る視点であるとか、進め方であるとか立ち位置であるとか、質問であるとか、そういうことについての学びというところでやっておりますので、自分の教科でなくても学べるという、この間もお話ししたように、以前のように教科だけではなくて教科横断的にやってきておりますので、初任者のほうも自分の教科ではなくても見ながらという形で、中には道徳の授業もありますし、そういう中でやっていくという形になります。講師のほうは鈴木補佐のほうで、今までの経験をもとに、こういうことを注意したほうがいいのか、そういう

講義になります。また授業とは違う形になるのですけれども、そういう形で初任者研修を小学校、中学校に分かれてやっております。

○豊島委員 小学校、中学校は別々ですよ。各教科ごとにはなかなか、それはあれですけれども。わかりました。ありがとうございました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○蒲田委員 6ページ、指導課です。「中学校体育祭巡回」の件でお尋ねします。日時として午前中に回るとなっています。夕方に関しては少年指導員のほうもあって、一斉にパトロールをしているのでしょうか。夕方のほうも少し心配な時期があったかと思うのですが。

○横山少年センター長 例年、少年指導員のほうはパトロールをしておらず、市教委担当ということで回らせていただいております。

○蒲田委員 夕方もですか。

○横山少年センター長 夕方については昨年度行っていなかったのですが、原則拘束するのは、私たち指導課のほうでも、この人数の中で各学校を分担して、2つに分けて実施をします。ただ、何かがあるかなということであれば、また時間を延長しつつ、見守るということも実施していきたいと思います。小学校のときは1日実施をしておりました。

○蒲田委員 私がしていたときには、終わった夕方ぐらいからも見回りをしていまして、市境でしたので、柏のほうまで回っていたものですからお尋ねしました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 15ページの文化スポーツ課のところ、「文化祭第60回オープニング」というのですけれども、9月30日に我々も参加させていただきたいと思います。この60回ということで、例年のオープニングとはまた違った、そういうような状況か何かは予定されているのでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 文化祭60回を記念したオープニングイベントということで、大々的にやるのは今回初めてです。午前中にオープニングイベントを行いまして、午後に発表会を行う予定であります。

○倉部教育長 その具体的な内容がわかれば、教育委員さんのほうに御紹介等をしていただくということによろしいですか。ぜひお願いします。

○横山少年センター長 訂正をお願いします。

○倉部教育長 先ほどの訂正ですか。

○横山少年センター長 「ない」ということで即答してしまったところなのですが、久寺家中区のほうが9日(土曜日)6時から、夕方パトロールを実施いたします。申しわけありませんでした。

○倉部教育長 地区によっては夕方もやっているということですね。それは久寺家中区ということです。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

○蒲田委員 16ページの2番目、「博物館実習」の件でお尋ねをします。白樺文学館で9月から12月の4カ間で14日間の博物館実習をするという内容が書いてあるのですが、博物館実習をするということは、私は認識していなかったのですが、白樺文学館は博物館相当施設ということで運営しているということでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 白樺文学館は、今委員がおっしゃったように正式な公共の博物館ではないのですが、年間を通して学校との連携ということで、小中学生の職場体験や学芸員の実習の受け入れをしています。展示の仕方だとか作品の扱い方などを勉強しています。

○倉部教育長 よろしいですか。学校によって単位の取得の範囲が違うのかなと思いますけれども、聖徳においては、今までもこういう博物館実習は受け入れたのですか。

○鈴木文化・スポーツ課長 聖徳などにつきましては、過去にも受け入れをし

ております。

○倉部教育長 ありがとうございます。ということで、これは実績になると考えてよろしいかなと思います。

○蒲田委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務進行予定に対する質疑を打ち切ります。

次に教育事業全般について、御意見なり御質疑があればこれを許します。

○豊島委員 議会のほうの御質問と回答等についての資料をいただいております。十分には読み込めていないのですけれども、29年度第2回市議会の一般質問の質問と答弁の概要という、そんなに厚くない冊子を拝見しております。その中かなり集中してあるのは、1つは小中一貫教育に関することというのが、議員さんのお名前は挙げませんが、そういうことについての御質問と回答というのがかなりあります。

それからもう1つは、例えば教員の多忙化に関して事務補佐員のこととか部活動指導員のことについて、これからなっていくということでの御質問というのがありました。

そういうことを議会のほうでも取り上げていただいて、一緒になってというか、指導的な立場でいろいろと御意見をいただけている、質問をいただけるということは、すごくありがたいなと思っております。ぜひ頑張って何とか我々のほうにお力をおかしたいと思うのですが、そうしたことを踏まえた中で我々は議会のほうでも議論になっている小中一貫教育に関して、教員のほうの負担というか、例えば1つは小学校で英語教育はどうするのか、そういうことがあったりするのです。今ここで小中一貫教育のことで僕らはすぐに

は考えられないけれども、教員が今までやっていなかったことが教育指導要領の改訂とか何とかで、それがさらに進んで小学校でも英語がどうのこうのとなってくる。そういうことになってきた中で、なおかつ小中一貫教育のこともやらなければいけない。そうすると教員はますます忙しくなるのですね。そのところを本当に我孫子の我々のほうは、先生の多忙感がすぐには訴えないから何とかということだけではなくて、指導的にどうしたらいいのかなということをももちろん今考えていらっしゃることはわかっています。その上でですけども、もうちょっと本腰を入れてやっていく必要があるのではないかなと思っています。

それから教員の勤務体制の問題も、文科省が来年に向けて動いていきます。いきますけれども、こういうふうにながちり決まったから我々もやるんだと。結果的にはそれではいいのですけれども、姿勢としては我々の考えはそれに先行しているぞというふうな形で大体わかっているわけですから、それに対してやはり先行していく、考えていくということをやっていく。議会のほうでもそのことを考えていただいて、予算なり何なりということもやっていただかないと困るのではないかなと思います。

私は北海道の出身なのです。北海道の地方のほうは、ほとんど限界集落です。本州だって地方はそうです。我孫子は中途半端なところにあります。私の勤務先は渋谷です。だけれども、こちらに住んでいます。我孫子はそういうところで中途半端な場所にあるから、これは悪い意味で言っているのではないですよ、いい意味でですよ。ですからなかなか目立たないというか、人口がふえないというか、そのところで人口をふやしていくものがあるとすれば、1つは教育だろうと思うのです。産業といたってそうはないし、自然といたって、そうたくさんあるわけではない。ということで教育をもう少しふやしていくということ、議会の一般質問のところでこれだけ出ているわけですので、今まで

やっていることに対しては、教育委員の動きとしては誇りを持っておりますけれども、真剣に考えています。その上でもっと考えていかないと、全体の動きはこうだからこうなのだというのではだめだという感じがしているのですね。これは誰に対するどういう質問かはわかりませんが、教育長さんに対する質問です。

○倉部教育長 今現場が、あるいは私たちが抱えている焦燥感というものを代弁していただいたのかなというふうに思っています。これは残念ながら十分に答え得る人はこの中にはいない。みんなが思っているけれども、こうしたいのだけれども、その解決策は残念ながら明確な回答がない中でやらなければならないことだけがつけ加わっている。我孫子の中でどうしたら子供たちのためになるかという一つ一つの方策が、例えば小中一貫教育であったりというふうに考えています。ですから、それがイコール負担感にならないような工夫は、それぞれの中で当然進める上においては検討し、予算要求をし、人員配置をしていただいておりますが、だからといってそれが十分であるとは感じていないと思います。まだまだやる余地はあるけれども、残念ながらその全てを充足できるだけのものがない。では、というところを考えていくのが、この教育委員会のあり方だと思っておりますので、毎回毎回これについては皆さんがいろいろ考えて、ではどうしたらいいんだという焦燥感を持ちながら、一つ一つ一緒になって考えていくしかないのかなというのが、残念ながら今までやっている中で私の思いです。ただ、こういう思いをずっと持ち続けていかないと現場に近づけないし、先生たちが持っている焦燥感を知ることもできない。我々だけが何とかしなければということだけでは、とても解決できないと思っておりますので、そのうちの一つ一つをちゃんと教育委員会のこの場と、それから現場で考えている先生たちと、なおかつ子供たちがどうあるべきかということを考えていながら進めていくしかないのかなという、そういうものを埋めるために実はこ

の間、この教育委員さんと中学生の代表が直接話し合うというきっかけを持ったというのも、小さな一歩ですけれども、そういうことだったと思っていますので、そういうものを積み重ねていって、できるところから進めていく。

今、豊島委員からお話がありましたように、議会のほうからも同じような、やはり焦燥感から来る御質問だと思っています。本当に大丈夫なのかとか、国の方針としてどうなのかとか、いろいろな御心配をいただいていますけれども、残念ながらそれについての答えを持ち合わせていない。国の方針を見ながら、あるいは県の方針を見ながら、指導できる範囲はどこまでなのだ、その中で解決策を見つけていくしかない。前回の質問に対して私も答えさせていただきましたけれども、我々ができるものには範囲がある。ただし議員の皆さんが動かせる国への働きかけというのものもある。そういうものの中でもぜひ私たちの実情を知っていただいて働きかけてほしいと逆にお願いをしたこともありますので、あわせてそういう中で同じ方向性が見つけられればいいかなと思っています。現状の中でこれだけしかお答えできませんし、これ以上の答えを出すのは、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。お答えになったでしょうか。

○豊島委員 ありがとうございます。率直におっしゃっていただいて、そのまま飲み込みますし、お礼申し上げます。

ちょっと個人の議員さんのことであれですけれども、教育委員会の定例会議の傍聴席に毎回来てくださっている議員さんもいます。これは本当にありがたいことです。その議員さんが所属している議会の中で本当にリードしていただきたいなど、本気になってサポートしていただきたいなど。教育委員会と一緒にやっていっていただきたいなど。そんなにたくさんお金がないのだから、そのお金がないところで、しかし何とかしないと、どんどん人口が減っていく、我孫子だって例外ではない。減っていく中で取り残されてしまう、

普通のところになってしまうということは防ぎたい。ちょっと偉そうに聞こえるかもしれないけれども、地方とか何とかを回っている私にとっては、本当に人が少なくなることはどういうことか身にしみているものですから、やっぱり我孫子のよさを出して先々進めていければなと思います。教育長さんにお答えしていただいて、ありがとうございます。それ以外つけ加えることはないので、今後ともよろしく願いいたします

○倉部教育長 あえてつけ加えるとしますと、今回の議会で13人中10人が教育委員会に対する質問というふうを受けています。私としてはこういうふうを考えているのですが、それだけ多くの議員が我孫子の教育に対していろいろな関心を持っていただいて、なおかつその質問の内容は、応援する立場で学校現場あるいは生涯学習の分野を理解し、それをもっと頑張れというふうに言っていた質問の裏返しだというふうを受けていますので、そういうものをちゃんと議会の中に誠意をもって答弁することによって、この教育委員会に対しての協力者になっていただけるということを念願しつつ、議会对応についてはこれからも進めていきたいなと思っていますので、そういう思いで皆さんもいっていただければと思っています。そういうような方向性で頑張りたいと思います。よろしく願いします。

ただいまの豊島委員からの発言に対して、ほかに教育委員さんから発言があれば。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それではほかに教育事業全般について、何かあれば議題とします。——よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。以上で諸報告に対する質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 以上で平成29年第8回定例教育委員会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

午後3時05分閉会